

科目ナンバリング											
授業科目名 ＜英訳＞		日本社会論 Introduction to Japanese Society				担当者所属 職名・氏名		非常勤講師 木村 純			
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)		日本理解			使用言語	日本語	
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	木4		配当学年	1回生	対象学生	留学生		
【授業の概要・目的】											
日本の伝統社会が近代化の進行によりいかに変容してきたかを、「個人主義化」（第一の近代）から「個人化」（第二の近代）への移行に焦点を当てて把握する。そのうえで日本的集団主義論の批判的検討を通じて、現代社会において集団主義社会の解体と「個人化」が急速に進んでいることを理解し、その現れとして企業・教育・家族が直面する諸問題を考察する。											
【到達目標】											
1. 日本の伝統社会が、個人の自由意思を重視する「個人主義化」社会を経て、階級・核家族・職業労働の集合的安定性が失われ、個人が社会と直接対峙する「個人化」社会に至った過程を把握する。											
2. 日本的集団主義論が戦時期—高度経済成長期の集団主義社会を前提に構想されたことを理解する。											
3. 現代社会における「個人化」が引き起こす問題を、企業・教育・家族の事例を通して具体的に把握する。											
【授業計画と内容】											
基本的に以下の順序で講義を進める。ただし講義の進み具合に応じて、講義の順番や回数を変更することがある。											
伝統社会構造											
第1回 古代専制国家											
第2回 中世封建制											
第3回 近世封建制											
日本社会の変貌											
第4回 明治維新による社会変容											
第5回 大正デモクラシーによる社会変容											
第6回 高度経済成長による社会変容											
第7回 構造改革による社会変容											
第8回 学生発表（本国との比較）・ディスカッション											
日本的集団主義論											
第9回 『菊と刀』にみる日本的集団主義											
第10回 『「集団主義」という錯覚』による批判											
第11回 『「日本人」といううそ』による批判											
現代日本社会における「個人化」											
第12回 企業：ピラミッド型組織構造・過労死問題											
第13回 教育：いじめ問題・1990年代の教育改革											
第14回 家族：共働き家族・待機児童問題											
第15回 学生発表（本国との比較）・ディスカッション											
----- 日本社会論(2)へ続く↓↓↓ -----											

日本社会論(2)

[履修要件]

日本語・日本文化研修留学生専用科目

[成績評価の方法・観点]

ディスカッションへの参加度（30％）および期末レポート（70％）

[教科書]

毎回プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

ベック 『危険社会』 ISBN:978-4588006098

富永健一 『日本の近代化と社会変動』 ISBN:978-4061589520

吉見俊哉 『ポスト戦後社会』 ISBN:978-4004310501

高野陽太郎 『「集団主義」という錯覚』 ISBN:978-4788511156

鈴木宗徳編著 『個人化するリスクと社会』 ISBN:978-4326653911

[授業外学修（予習・復習）等]

参考書をもとに予習・復習してください。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]